

参考文献

- 電力中央研究所・電気事業連合会（1999）：高レベル放射性廃棄物地層処分の事業化技術，
U98509 d .
- 土木学会（1996）：トンネル標準示方書[山岳工法編]・同解説.
- 土木学会（1980）：新体系土木工学トンネル(I)—山岳トンネル—，技報堂出版.
- 榎本剛（2003）：炭素繊維ケーブル”CFCC”の技術開発，JETI, Vol.51, No.13, pp.140-142.
- 原子力発電環境整備機構（2004）：高レベル放射性廃棄物地層処分技術と安全性，
NUMO-TR-04-01.
- 地盤工学会（1986）：現場技術者のための土と基礎シリーズ 12 NATM 工法の調査・設計
から施工まで.
- Glukhovskiy, V.D., Pakhomov V.A. (1978) : Slag-Alkali Cements and Concretes., Budivel'nik
Publishers, Kiev, Russia.
- Gray M N. and Shenton B S. (1998) : Design and Development of Low-Heat, High-Performance,
Reactive Power Concrete, The International Symposium on High-Performance and Reactive
Power Concrete, Sherbrooke PQ, Canada.
- 建設産業調査会（1987）：最新トンネル工法・機材便覧.
- 核燃料サイクル開発機構(1999)：わが国における高レベル放射性廃棄物地層処分の技術的
信頼性—地層処分研究開発第2次とりまとめ—分冊2 地層処分の工学技術.
- 蔵重勲，廣永道彦，杉山大輔，関口陽，秋山隆，庭瀬一仁（2005）：セメント硬化体の溶脱
に対する地下水組成の影響，土木学会第60回年次学術講演会.
- 大和田仁，三原守弘，入矢桂史郎，松井淳（2000）：放射性廃棄物地層処分システムにおけ
るセメント系材料の検討 - 浸出液の pH を低くしたセメント系材料の施工性と機
械的特性-，JNC TN8400 99-057.
- Ogawa, K., Uchikawa, H., Takemoto, K., Yasui, I. (1980) : The mechanism of the hydration in the
system C3S-Pozzolan, Cement and Concrete Research, Vol. 10, pp.683-696.
- 鉄道建設・運輸施設整備支援機構（2008）：山岳トンネル設計施工標準・同解説，p.52, p.61,
p.65, p.74, p.221, p.223, p.225.
- Urhan,S. (1987) : Alkali silica and pozzolanic reactions in concrete. Part 1 : Interpretation of
published results and an hypothesis concerning the mechanism, Cement and Concrete
Research, Vol. 17, pp.141-152.

- Vuorinen, U., Lehtikoinen J., Imoto H., Yamamoto T., Alonso M. C. (2005) : Grout for Deep Repositories Subproject 1: Low-pH Cementitious Grout for Larger Fractures, Leach Testing of Grout Mixes and Evaluation of the Long-Term Safety, Posiva Working Report 2004-46.
- Wesche, K. (1991) : Fly Ash in Concrete - Properties and Performance, RILEM REPORT 7, E & FN SPON, pp.48-49.
- 山本武志, 廣永道彦 (2008) : フライアッシュのポゾラン反応性を評価するための促進化学試験法 (API 法) の適用性の拡張, コンクリート工学論文集第 30 卷, Vol.30, No.1, pp.195-200.
- 山本武志, 金津努 (2005) : ポゾラン反応がもたらす組織緻密化のメカニズムと強度発現に関する考察, 土木学会第 60 回学術講演会講演概要集, 5-244, pp.487-488.

謝辞

本検討における基礎物性評価においては、元(財)電力中央研究所バックエンド研究センター（現 BASF ポゾリス株式会社）井元晴丈氏に多大なご尽力をいただいた。また、処分場の環境条件における低アルカリ性セメントの適用性評価においては、元(財)電力中央研究所バックエンド研究センター（現東京電力株式会社）窪泰浩氏にご助言をいただいた。さらに、本検討を遂行するにあたり、(財)電力中央研究所の松村卓郎氏、松尾 豊史氏、蔵重勲氏、千田太詩氏にご協力いただいた。ここに記して感謝の意を表す。